

平成28年度 学校生活アンケートの結果（概要）

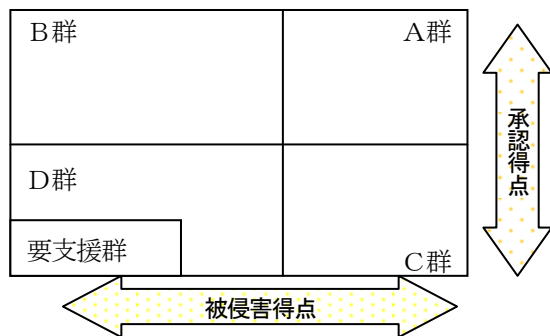
本区においては、児童・生徒の人間関係を把握・改善指導し、児童・生徒が円滑な学校生活を送ることができるように、今年から、小学4年生以上の全児童・生徒を対象に学校生活アンケート（ハイパーQU）を実施することとしている。今年度は、5月上旬から6月中旬に各校で実施した。

学校生活アンケート（ハイパーQU）は、以下の調査により構成されている。

- ① 学級満足度尺度（居心地のよいクラスにするためのアンケート）
- ② 学校生活意欲尺度（やる気のあるクラスをつくるためのアンケート）
- ③ ソーシャルスキル尺度

学級満足度尺度は、いじめ等を早期発見し、適切に対応する体制作りのために、特に重要であるため、今回はこの尺度結果について報告する。

I 学級満足度尺度と各群の特徴

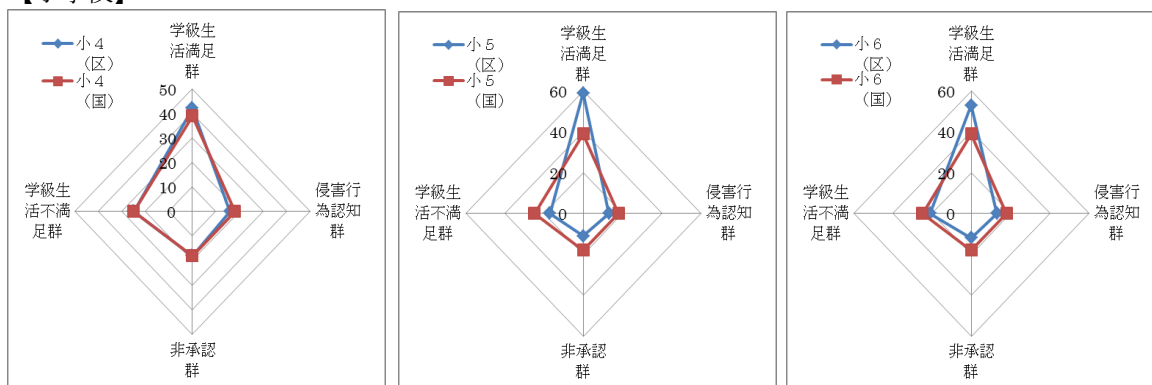


被害得点（トラブルやいじめなどの不安がなくリラックスできているか）と、承認得点（自分が級友から受け入れられ、考え方や感情が大切にされていると感じられるか）を座標軸化し、下の4つのタイプに分けて理解する。

- A 学級生活満足群・・・学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている子ども
- B 侵害行為認知群・・・いじめや悪ふざけを受けているかトラブルがある可能性が高い子ども
- C 非承認群・・・いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内であまり認められていない子ども
- D 学級生活不満足群・・・いじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い子ども

II 本区の学級満足度尺度結果

【小学校】

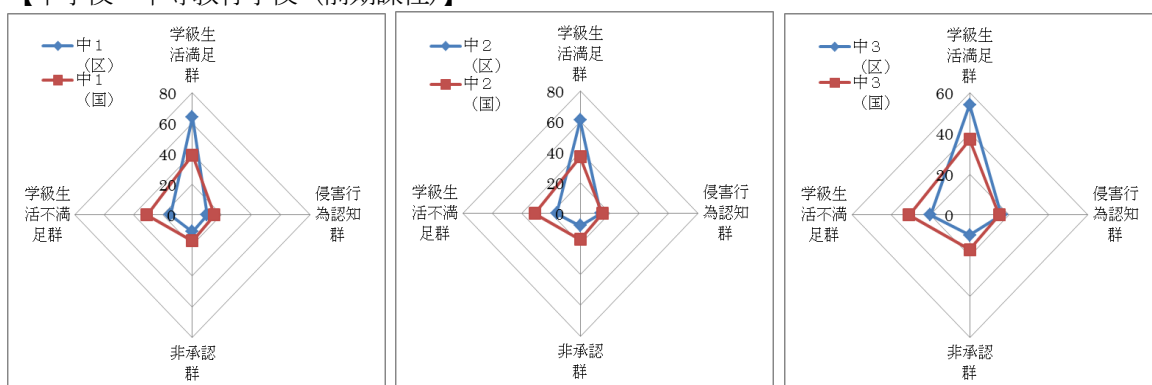


	学校生活満足群			侵害行為認知群			非承認群			学級生活不満足群		
	区	国	差異	区	国	差異	区	国	差異	区	国	差異
小4	42	39	+3	16	18	-2	18	18	±0	25	25	±0
小5	59	39	+20	13	18	-5	11	18	-7	17	25	-8
小6	53	39	+14	13	18	-5	12	18	-6	21	25	-4

【小学校】

- 学校生活満足群（A）について、小5・6は全国平均を大きく上回っており、多くの児童は学校生活に満足していると考えられる。小4は、全国平均に対し+3ポイントであり、学校生活に対して満足と感じている割合が他学年に比べて低くなっている。
- 侵害行為認知群（B）は、いずれも全国平均を下回っており、いじめや悪ふざけにあっていると感じている児童は少ない。
- 非承認群（C）は小5・6は全国と比較して低いが、小4は±0ポイントと他の学年に比べ高い。
- 学校生活不満足群（D）は小5・6は全国と比較して低いが、小4では±0ポイントと他の学年に比べ高くなっている。従って、小4に対しては早急な対応が必要と考えられる。

【中学校・中等教育学校（前期課程）】



	学校生活満足群			侵害行為認知群			非承認群			学級生活不満足群		
	区	国	差異	区	国	差異	区	国	差異	区	国	差異
中1	64	39	+25	10	15	-5	11	17	-6	15	31	-16
中2	61	37	+24	14	15	-1	8	17	-9	16	31	-15
中3	54	37	+17	16	15	+1	10	17	-7	20	31	-11

【中学校】

- 学校生活満足群（A）は、全国平均を大きく上回っている。
- 侵害行為認知群（B）は、中1・2はいずれも全国平均を下回っており、いじめや悪ふざけにあっていると感じている生徒は少ない。中3は、侵害行為認知群が全国平均に対し+1ポイントと、わずかながら上回っている。
- 学級生活不満足群（D）は、中学校では全国平均に対して2ケタ以上低くなっている。